

日本角膜学会 年次報告書

ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

PHOTO REPORT

角膜カンファランス2017 体験記

角膜カンファランス2018に
ようこそ

学術奨励賞受賞者
喜びのコメント



日本角膜学会 年次報告書

ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

Vol. 21



3… 理事長挨拶

筑波大学
大鹿 哲郎

4… 角膜カンファランス2017

(第41回日本角膜学会, 第33回日本角膜移植学会)を主催して

福岡大学
内尾 英一

PHOTO REPORT

**5… 角膜カンファランス2017
学会レポート**

福岡大学
佐伯 有祐

**9… 角膜カンファランス2018に
ようこそ**

広島大学
近間 泰一郎

**10… 角膜カンファランス過去開催
一覧表／**

学術奨励賞受賞者一覧表

**11… 学術奨励賞受賞者
喜びのコメント**

京都府立医科大学
北澤 耕司
大阪大学
林 竜平

**13… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞
1994～2017年受賞者一覧表**

**15… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞者
喜びのコメント**

大阪大学
石川 幸 (2017年度 内田賞受賞)
東京大学眼科
北本 昂大 (2017年度 北野賞受賞)
東京歯科大学
柿栖 康二 (2017年度 眞鍋賞受賞)

18… 日本角膜学会 会則

19… 理事会／評議員会議事録など



理事長挨拶

筑波大学
大鹿 哲郎

日本角膜学会 Annual Report 2017をお届けします。
2017年にはまず、内尾英一先生(福岡大学)を会長として、角膜カンファレンス2017(第41回日本角膜学会総会、第33回日本角膜移植学会)が2月16日～18日の日程で開催されました。発表演題数225題、参加人数1,070名と非常に盛況な学会でした。アスレチックのバブルサッカー大会、古代エジプト研究者吉村作治教授の講演、九州の料理を楽しみながらのクイズ大会など、様々な趣向が凝らされており、主催の内尾先生及び福岡大学眼科医局の先生方には準備に大変なご苦勞をされたものと拝察致します。

ご存知のように、角膜カンファでは以前から、発表スライドは英語での作成が原則で、発表言語は英語・日本語のどちらでも可となっています。ポスターでは、英語の要約を添付します。これは、アジアを含めた海外からの参加者のことを考えてのことです。一方、日本眼科学会総会と日本臨床眼科学会においても2017年から、英語での抄録作成、スライド作成を推奨するという方針が導入されました。日眼総会と臨眼では初めての試みであったことから、実際に英語で作成された抄録やスライドは少なく、また英語での発表に聴衆が戸惑う姿もみられました。それに引き換え、角膜カンファの英語化はすでに広く定着しており、あまり違和感もなく受け入れられています。慣れの問題もありますが、根本的に角膜研究者および角膜カンファ参加者の意識とレベルの高さを示すものともいえます。

さて、学会以外の出来事として、ドライアイの診断基準改定がありました。「角膜上皮障害を問わずにBUT 5秒以下であればドライアイと認める」といったもので、あたらしい眼科の3月号に掲載され、また一部修正した内容が日本眼科学会のウェブサイトアップロードされています。また、この診断基準はAsia Dry Eye Societyの診断基準としても認められ、Ocular Surface 1月号に掲載されました。国際的に認知されたことは、たいへん素晴らしいことです。

角膜学会が毎年選出している学術奨励賞は、林 竜平先生(大阪大)「ヒトiPS細胞からの角膜上皮の分化誘導と再生医療への応用」と北澤耕司先生(京都府立医大)「角膜上皮細胞分化を維持する転写因子ネットワークの解明」に授与されました。非常にレベルの高い研究で、今後の発展が楽しみです。

2年に一度行われているAsia Cornea Societyですが、2018年5月に中国の青島で行われます。是非とも多くの先生方に参加していただき、日本から世界に向けて情報を発信するとともに、各国の角膜研究者の知己を得、ネットワークを拡げていただきたいと思います。

角膜カンファランス2017

(第41回日本角膜学会, 第33回日本角膜移植学会)

を主催して

このたび2017年2月16～18日まで角膜カンファランス2017(第41回日本角膜学会、第33回日本角膜移植学会)がアクロス福岡を会場として、福岡大学の主催で開催させていただきました。学会のテーマは「天空海闊の角膜学」とさせていただきましたが、これは北宋(960～1127年)時代の書物にみられたことばで、“空や海のように限りなく広がり、深い”角膜を取りまく研究の進展を会員の皆様と分かち合いたいということで、遣唐使からはじまり、太宰府の外港として、そして日宋貿易で大きく発展した千年都市福岡の歴史を踏まえてテーマといたしました。

合計225題の多数の演題をお寄せいただき、一般口演と特別プログラムを2会場に配置して、プログラムを編成いたしました。幸い両会場とも席がかなり埋まる状態で、討論も活発で、日本語スライドセッションについても概ね好評であったという印象でした。シンポジウムは「角膜移植フロンティアへの挑戦」、「角結膜疾患の診断基準を考える」および「角膜疾患と緑内障」の3題、招待講演は「感染症スペシャリストが説きあかす難治性病原体の秘密」として、それぞれの領域の専門の先生方にご解説いただきました。会期中は幸い雪も降らず、寒さもさほどではなく、3日間とも天候にも恵まれました。アスレチックのバブルサッカー大会では、参加された選手たちは、最初は戸惑いながらも、バブルを装着してのフットサルを堪能して、けが人もなく無事に終わりました。それに続いての懇親会では、古代エジプト研究者の吉村作治教授に講演をお話いただき、「この世界には変わらないものと、変わっていくものがある」というとても示唆に富むメッセージを頂戴することができました。参加の先生方は博多のB級グルメと九州の料理を楽しまれ、ほろ酔い気分のなかでアスレチックの優勝決定戦を兼ねるクイズ大会でさらに盛り上がり、昨年に続き大阪医大チームの連覇という結果になりました。

このように本学会の日程を無事に盛会のうちに終えることができました。参加者数は1,070名と本当に多くの先生方に福岡にお越しいただきましたことに改めて感謝申し上げるとともに、今回の角膜カンファランス開催につきましては、日本角膜学会、日本角膜移植学会の会員の先生方にひとかたならぬご理解とご協力を賜りましたことを御礼申し上げます。



福岡大学
内尾 英一

角膜カンファランス 2017学会レポート

福岡大学
佐伯 有祐

はじめに

2017年2月16日(木)～2月18日(土)にかけて、第41回日本角膜学会総会・第33回日本角膜移植学会をアクロス福岡におきまして主催させていただきました。このような伝統ある学会を福岡で開催させていただく機会を与えていただきました日本角膜学会、日本角膜移植学会の理事、評議員、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

学会

プログラムは、招待講演、3題のシンポジウム、そして一般演題にて構成されました。

一般演題は今回、2会場にて行う構成とさせていただきましたので、口演117題、学術展示108題と例年に比べ口演の割合が多くなりました。また、新しい試みとして2会場のうちどちらかは日本語スライド可の「日本語セッション」、もう一方は例年のように英語でのスライド表記とする「英語セッション」とさせていただきました。2会



ポスター写真

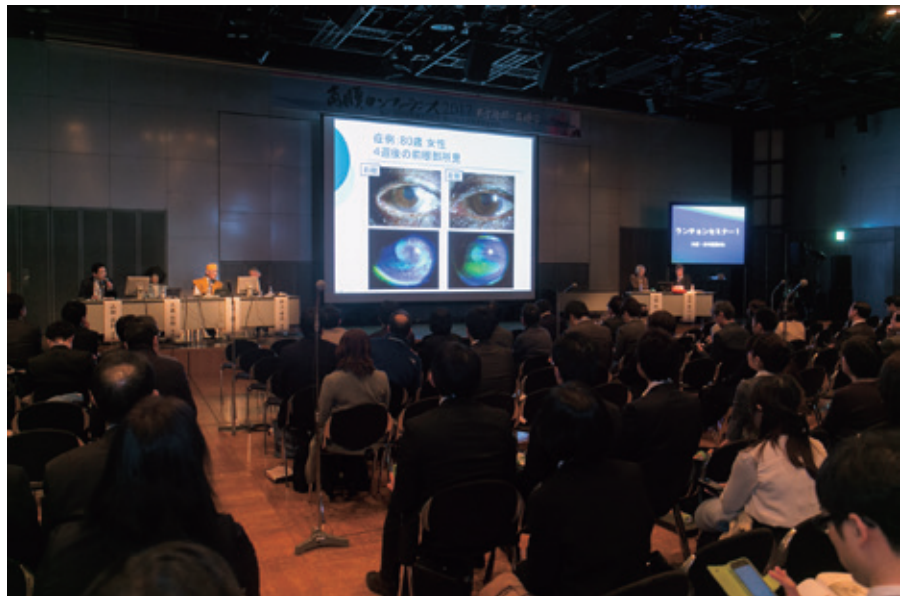


学会場外観

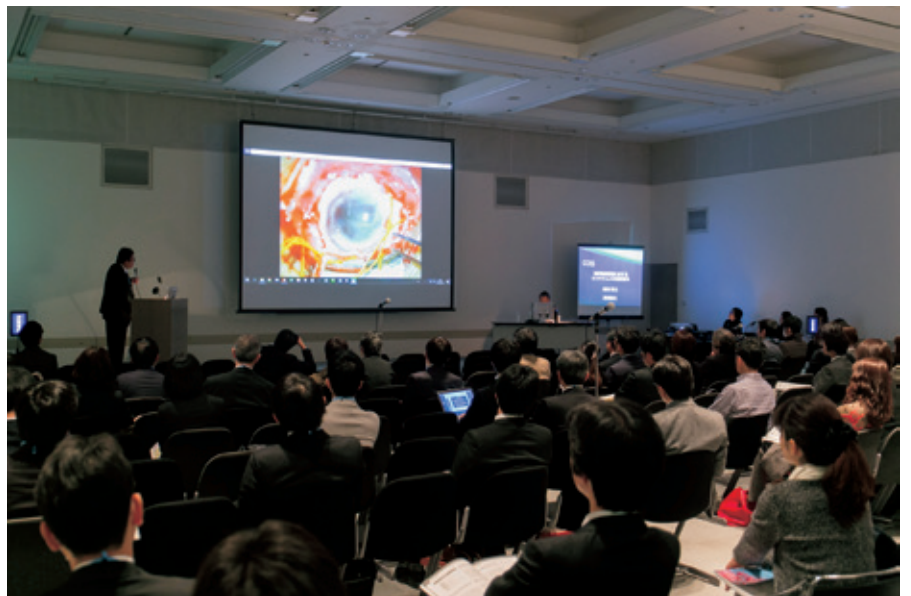
場となってしまったことで参加者の偏りが起こることを危惧いたしました。どちらの会場もほぼ満席の状態ですが、どちらの会場も非常に活発な質疑応答がなされており、安堵いたしました。しかし、ある発表者から「英語セッションの会場なので、ルールには従いメインスライドは英語にします、しかし英語スライドでは言いたいことが十分伝わらない可能性があるためサブスライドに用意した別の日本語スライドを映していただけませんか？」という問い合わせがあり、理に適っていると判断しそのようにさせていただきます。

近年、英語スライドによる発表が推奨される傾向にあります。症例報告や今回の診断基準に関するシンポジウムなど日本語スライドが向いているものもあると思われました。学術展示にも多岐にわたる演題が集まり活発な議論がなされておりました。どれもすばらしい発表で審査が難航いたしました。最終的に眞鍋賞は、柿栖康二先生(東京歯大)の「海外ドナー角膜の術前温度管理が角膜内皮移植術後の内皮細胞密度に与える影響」、内田賞は、石川幸先生(大阪大)の「ヒトiPS細胞由来角膜上皮細胞の長期間培養」、北野賞は、北本昂大先生(東京大)の「顆粒状角膜変性症に対するCRISPR/Cas9を用いた遺伝子編集」に決定いたしました。

シンポジウム1「角膜移植フロンティアへの挑戦」では島崎潤先生(東京歯大)、山上聡先生(日本大)にオーガナイザーをお願いし、大家義則先生(大阪大)に「自家体性幹細胞を用いた角膜上皮の再生医療ー普遍的な治療を目指してー」、山口剛史先生(東京歯大)に「DMEK」、妹尾正先生(獨協医大)に



第一会場



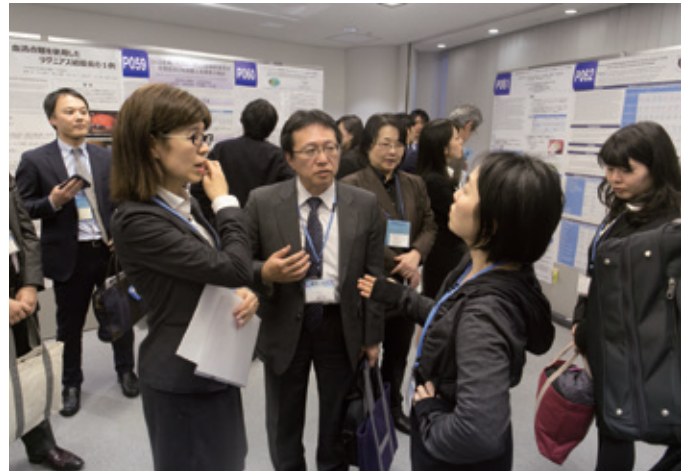
第二会場

「フェムトセカンドレーザー利用角膜移植」、福田昌彦先生(近畿大)に「人工角膜移植」についてご講演いただきました。また私も「角膜感染症に対する治療的角膜移植」についてご報告させていただきました。最先端の角膜手術に関する知見を得ることができ、非常に刺激になりました。シンポジウム2「角結膜疾患の診断基準を考える」では西田幸二先生(大阪大)、前田直之先生(大阪大)にオーガナイザーをお願いし、

山田昌和先生(杏林大)に「前眼部形成異常の診断基準」、川崎諭先生(大阪大)に「無虹彩症の診断基準」、大家義則先生(大阪大)に「フックス角膜内皮ジストロフィの重症度分類と診断基準」、林康人先生(愛媛大)に「眼類天疱瘡の診断基準試案」、稲田紀子先生(日本大)に「重症型アレルギー性結膜疾患(VKCとAKC)」、島崎潤先生(東京歯大)に「円錐角膜・ペルーシド角膜辺縁変性」についてそれぞれご講演いただきました。



バブルサッカー



ポスターセッション



懇親会



クイズ大会

シンポジウム3「角膜疾患と緑内障」では木内良明先生(広島大)、高橋浩先生(日本医大)にオーガナイザーをお願いし、上松聖典先生(長崎大)に「緑内障点眼薬および防腐剤の角膜毒性～生体角膜バリア機能評価による新たな知見～」、高橋浩先生(日本医大)に「レーザー治療と角膜内皮」、当大学の尾崎弘明が「緑内障手術と角膜障害」、木内良明先生(広島大)に「角膜移植術と緑内障手術」についてご講演いただきました。そして、招待講演「感染症スペシャリストが説きあかす難治性病原体の秘密」では佐和貞治先生(京都府医大・麻酔科学教室)に「緑膿菌性細胞上皮傷害の分子病態メカニズム」、

榎村浩一先生(帝京大・医学部教育研究センター／帝京大・医真菌研究センター)に「難治角膜感染症の原因となる真菌とその対策」、八木田健司先生(国立感染症研究所・寄生動物部)に「アカントアメーバと感染症」をそれぞれご講演いただきました。眼科医が完全に掌握しきれないこれらの病原体に対する、新しい知見を得ることができました。

アスレチック大会と懇親会

アスレチックが2月17日午後に行われました。昨年が非常に楽しく印象に

残ったカーリング大会であり大変なプレッシャーがありました。学会長の決断にてバブルサッカー大会を開催いたしました。バブルサッカーはフットサルのルールを基本としますが、大きく透明なバブル内に上半身すべてを入れてプレーいたします。バブルの中からの視界は悪く、かなり動きは制限されますが、思い切りぶつかっても痛くなくテクニックや性別にかかわらず楽しむことができるスポーツです。24チームと多数の事前参加チームの連絡をいただき、学会場よりバスで30分のところにあるスプラージ金隈のフットサルコートに4コート貸し切りで行いました。試合時間を十分取ることができず



集合写真

参加者が満足されないことを心配していたのですが、バブルの重さはなんと13kgもあり、4分各チーム4試合という時間配分でも皆様十分に満足して(疲れて)おられるようでした。新人の先生も重鎮の先生もぶつかったり転がったり楽しそうにプレーされていました。何より大きなけがもなく無事終了し安堵いたしました。バブルサッカー後は怒涛のタイムスケジュールでポスターセッション、懇親会と続きました。懇親会では吉村作治教授の講演を皮切りに博多B級グルメ(水炊き、大砲ラーメン、肉肉うどん、など)に舌鼓をうち、学会長出題のクイズ大会(バブルサッカー上位8チームによる知のアスレチック)

ク)では最高の盛り上がりが見られました。最終的にバブルサッカー優勝チームでもある大阪医科大学「ナイスガイズ」チームが総合優勝されました。

最後に

お陰様で1,000人を超える先生方にご参加いただき、大変な盛況のなか学会を終えることができました。事務局を担当させていただき、学会中や学会後に旧知の先生方からお世辞ではあると思いますが「よい学会でしたね」と言っていたことが何より嬉しく感じました。

私感で申し訳ないのですが、開催

一年前に「海や空のように限りなく広がり、深い」角膜をとりまく臨床、研究や人のつながりを示す意味で、今学会のテーマ「天空海闊の角膜学」を決定いたしました。終わってみて体現できたのではないかと考えております。最後になりますが、学会長、福岡大学眼科医局員一同ともども、至らない点をしっかりフォローして下さったコングレの皆様、ご協力いただきました企業関係者の皆様、そして何より参加いただいた先生方に深く御礼申し上げます。

(文責 佐伯有祐)

角膜カンファランス2018 によろこそ



広島大学
近間 泰一郎

この度、2018年2月15日(木)～17日(土)に角膜カンファランス2018(第42回日本角膜学会総会・第34回日本角膜移植学会)を広島で開催させていただき運びとなりました。このような名誉ある機会をお与えいただきました日本角膜学会ならびに日本角膜移植学会の理事、評議員、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回の角膜カンファランスは、「結集!! 角膜の神秘を科学しよう。」のテーマのもと特別講演、シンポジウムを予定いたしております。「発生からみた再生医療」をメインテーマとして角膜再生医療の現状と未来についてプログラムを企画いたしました。特別講演として、Kao教授(Cincinnati大学)に角膜の発生について基礎研究を中心に

お話をお願いいたしております。さらに、日本発の再生医療で初めて保険適応となった「三次元自家培養軟骨移植」を開発され、2015年には「自家培養軟骨の開発」の研究成果により紫綬褒章を受章された日本の再生医療を先導してこられた越智光夫広島大学学長に基調講演をお願いいたしております。

シンポジウム1は、角膜疾患の治療に臨床応用されている再生医療の現状と今後再生医療につながっていくと期待されている基礎研究について、シンポジウム2は、光エネルギーを用いた角膜疾患治療としてそれぞれの臨床・研究を推し進めている先生方に講演していただきます。

広島は、昨年「神ってる」カープのセリーグ制覇で大変盛り上がりました。

今年も連覇し、すわ日本一との期待が高まりましたが、なんと横浜ベイスターズにクライマックスシリーズで敗れてしまい、日本シリーズにたどりつけないという何ともやるせなく、広島のカッチフレーズにもなっている

“おいしい広島”を体現する結果となってしまいました。

冬の広島といえば「牡蠣」に代表されますが、お好み焼きやつけ麺といったB級グルメもあります。さらには、お土産にはさまざまな種類のもみじまんじゅうなどスイーツも各種取り揃えております。穏やかな瀬戸内の気候に育まれた海の幸や山の幸を一年を通して楽しんでいただけます。

今回の試みとして、従来のポスター発表のなかから選ばれる評議員会賞(北野賞、内田賞、眞鍋賞)に加えて、参加者が選ぶ最も興味深かった演題を投票していただき表彰したいと考えています。また、1人で参加してもチームで参加しても楽しめる広島風温泉的卓球大会を開催します。

この学会の伝統である「よく学び、よく遊べ」の精神をしっかりと引き継ぎ、ご参加の皆様にとって実りのある角膜カンファランス2018になるよう広島大学眼科医局員一同が総力を挙げて準備いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



角膜カンファランス過去開催一覧表

回数	日時	場所	世話係	演題数
1	1977年2月26日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京 眞鍋禮三	16
2	1978年2月25日	関電ビル 2F 関電会館	大阪 眞鍋禮三	10
3	1979年2月17日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京 眞鍋禮三	15
4	1980年2月24日	大阪中之島センタービル ロイヤル NCB 会館 3F 会議室 3号	大阪 眞鍋禮三	21
5	1981年3月1日	霞ヶ関ビル33F 東海大学校友会館	東京 眞鍋禮三	28
6	1982年5月20日	国立京都国際会館	京都 眞鍋禮三	35
7	1983年5月19日	国立京都国際会館	京都 眞鍋禮三	35
8	1984年2月26日	イカリビル 2F 大ホール	大阪 眞鍋禮三	40
9	1985年2月16日、 17日	日光金谷ホテル	栃木 大原國俊	56
10	1986年2月28日、 3月1日	八幡平リゾートホテル	岩手 田澤豊	57
11	1987年2月13日、 14日	大磯プリンスホテル プリンスホール	神奈川 金井淳	55
12	1988年2月19日、 20日	宝塚ホテル	兵庫 眞鍋禮三	78
13	1989年2月24日、 25日	北海道大学 学術交流会館	札幌 松田英彦	84
14	1990年2月1日、 2日	東京ベイヒルトンイン ターナショナルホテル	東京 千葉 北野周作 元卓	109
15	1991年2月8日、 9日	筑波大学大会館	茨城 本村幸子	114
16	1992年1月31日、 2月1日、2日	パシフィコ横浜	神奈川 増田寛次郎	139
17	1993年1月2日、 23日、24日	白浜・ホテル シーモア	和歌山 大鳥利文	157
18	1994年2月18日、 19日、20日	すみだリバーサイドホテル 浅草ビューホテル	東京 宮永嘉隆	188
19	1995年2月9日、 10日、11日	日都ホテル	京都 木下茂	180
20	1996年2月16日、 17日、18日	日恵比寿ガーデンプレイス内 ザガーデンホール	東京 小口芳久	187
21	1997年2月7日、 8日、9日	愛媛県民文化会館	愛媛 大橋裕一	183

回数	日時	場所	世話係	演題数
22	1998年2月13日、 14日、15日	賢島 宝生苑	三重 杉田潤太郎	204
23	1999年2月11日、 12日、13日	宇部全日空ホテル	山口 西田輝夫	175
24	2000年2月17日、 18日、19日	東京ベイホテル東急	千葉 坪田一男	184
25	2001年2月8日、 9日、10日	りんくう国際会議場全 日空ゲート タワーホテル大阪	大阪 下村嘉一	202
26	2002年2月21日、 22日、23日	パシフィコ横浜	神奈川 澤亮	208
27	2003年2月20日、 21日、22日	軽井沢プリンスホテル 西館	長野 村松隆次	200
28	2004年2月19日、 20日、21日	米子コンベンションセン ター(ビッグシップ)	鳥取 井上幸次	237
29	2005年2月17日、 18日、19日	徳島プリンスホテル	徳島 塩田洋	201
30	2006年2月9日、 10日、11日	東京ビッグサイト TFT ホール	東京 大鹿哲郎	200
31	2007年2月9日、 10日、11日	ワールドコンベンショ ンセンター	宮崎 宮田和典	220
32	2008年2月28日、 29日、3月1日	東京ベイホテル東急	東京 天野史郎	221
33	2009年2月19日、 20日、21日	ザ・リッツ・カールトン 大阪	大阪 前田直之	216
34	2010年2月11日、 12日、13日	仙台国際センター	仙台 西田幸二	198
35	2011年2月17日、 18日、19日	品川プリンスホテル	東京 高橋浩	200
36	2012年2月23日、 24日、25日	ホテルニューオータニ	東京 山口達夫	214
37	2013年2月14日、 15日、16日	和歌山県立町立総合体 育館・白浜健康館	和歌山 雑賀司珠也	229
38	2014年1月30日、 31日、2月1日	沖縄コンベンション センター	沖縄 島崎潤	264
39	2015年2月11日、 12日、13日	高知市文化プラザ かるぼーと	高知 福島敦樹	227
40	2016年2月18日、 19日、20日	軽井沢プリンスホテル ウエスト	長野 清水公也	232
41	2017年2月16日、 17日、18日	アクロス福岡	福岡 内尾英一	225

学術奨励賞受賞者一覧表

年度	回数	受賞者	所属
2003年	第1回	榛村重人	東京歯科大
		中村隆宏	京都府立医大
2004年	第2回	堀純子	日本医大
		川崎諭	京都府立医大
2005年	第3回	加治優一	筑波大臨床医学系
		小泉範子	京都府立医大
2006年	第4回	川北哲也	東京歯科大市川総合病院
		福田憲	山口大
2007年	第5回	山田潤	明治鍼灸大
		小林顕	金沢大
2008年	第6回	臼井智彦	東京大
		平岡孝浩	筑波大臨床医学系
2009年	第7回	堀裕一	大阪大
		有田玲子	東京大、伊藤医院
		井上智之	大阪大

年度	回数	受賞者	所属
2010年	第8回	川島素子	慶應大
		森重直行	山口大
2011年	第9回	奥村直毅	京都府医大
		柳井亮二	山口大
2012年	第10回	羽藤晋	慶應大
		中司美奈	京都府医大
2013年	第11回	崎元暢	日本大
		鈴木崇	愛媛大
2014年	第12回	高 静花	大阪大
		平山雅敏	慶應大
2015年	第13回	大家義則	大阪大
		山口剛史	東京歯科大
2016年	第14回	北澤耕司	京都府医大
		林 竜平	大阪大

北澤 耕司 (京都府立医科大学)

角膜上皮細胞分化を維持する 転写因子ネットワークの解明



この度は第14回日本角膜学会学術奨励賞を受賞させていただき、選考委員の先生方、学会関係者の皆様に心から御礼申し上げます。この賞は過去にたくさんの著明な先生方が受賞されており、私が受賞できたことに大変喜びを感じております。

私は大学院2年生の時から京都大学iPS細胞研究所(CiRA)に国内留学し、角膜上皮分化を維持する転写因子ネットワークの研究を開始いたしました。CiRAに移った年の秋に山中伸弥先生がノーベル賞を受賞するなど多くの貴重な経験をさせていただきました。そのなかでいくつかの研究を報告し、「角膜上皮細胞分化を維持する転写因子ネットワークの解明」の受賞講演を、今回させていただきました。

講演のなかで、iPS細胞が4つの転写因子で誘導できるように角膜上皮細胞では6つの転写因子を用いることで皮膚線維芽細胞から角膜上皮細胞へ直接分化誘導できることを報告しました。また、PPCD(後部多形成角膜ジストロフィ)では、以前より角膜内皮が上皮様細胞に異常分化していることが報告されていましたがそのメカニズムはわかっていませんでした。最近になって、このPPCDはOVOL2という転写因

子が角膜内皮で異常に発現していることが報告されました。偶然にもこのOVOL2は我々が角膜上皮細胞に重要であると見つけた6つの転写因子セットの1因子であります。そのため内皮細胞が上皮細胞化していることがわかりました。今後は、さらに転写因子の研究を進めて、正常角膜上皮がもっている透明性と高いバリア機能の理解を深めるとともに、異常なものを正常なものにリプログラミングできる方法を模索していきたいと考えています。

最後に本研究の機会を与えてくださりご指導いただきました木下茂教授、また現在、研究と臨床の場を与えてくださりご指導いただいております外園千恵教授をはじめ、お世話になった多くの先生方に心より御礼申し上げます。



学術奨励賞受賞講演にて

林 竜平 (大阪大学)

ヒトiPS細胞からの角膜上皮の分化誘導と再生医療への応用



この度は名誉ある第14回日本角膜学会学術奨励賞を賜りまして、誠にありがとうございます。また選考委員の先生方、平素よりご助言いただいている大阪大学眼科の西田幸二教授をはじめ眼科医局員の先生方、研究室研究員・スタッフの皆様には深く御礼申し上げます。

私は2004年から角膜の幹細胞、再生医療研究に従事させていただいております。最初は成体の角膜に存在している角膜幹細胞の特性および幹細胞維持機構(幹細胞ニッチ)に関する研究に取り組んでまいりまして、10年前の2007年には角膜カンファランスにて内田賞を頂くことができました。この受賞は研究人生で初めての受賞であったため、開催地の宮崎のこと、大会長の宮田和典先生より賞を頂いたことなど非常に印象深

く記憶に残っています。そしてちょうどその頃、iPS細胞が京都大学の山中伸弥先生、高橋和利先生らによって報告されました。この際、山中先生のご厚意で、山中研にて直接高橋先生よりiPS細胞について教えていただいたことがきっかけとなり、私はiPS細胞研究を開始いたしました。初めての多能性幹細胞を手にして、これまでの体性幹細胞と全く性質が異なること、さらにマウスとヒトのiPS細胞の性質の違い、そしてヒトiPS細胞株間の性質の違いには最後まで苦労しました。また、自身の東北大学から大阪大学への異動も重なり、目的の角膜細胞を得ることができないまま4年くらいがあっという間に過ぎてしまいました。この数年間は大変苦しい時期ではありましたが、幸い一緒に実験をしてくれた研究員

の石川幸さん、香取良祐君、当時大学院生の佐々本弦先生らが前向きに研究に取り組んでくれたお陰で、目的を達成することができました。結果として幸運にもNature誌に掲載され、さらに本賞まで受賞させていただいたことで、彼らの努力に少しでも報うことができたのなら何より嬉しく思います。

本研究を通じてbreakthroughは並大抵のことでは成し得ないことを改めて実感すると同時に、様々なことを学びました。まずは自分達で実際やってみること、よく観察し感覚を研ぎ澄ましていること、そしてフラットな研究チームであることが重要と感じました。今後も、幹細胞研究の深化ならびに角膜再生医療の実用化に向けて、現状に満足することなく研究チーム一丸となって取り組んでいきたいと思っております。



角膜グループの皆様



研究室の皆様



内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞

1994～2017年度受賞者一覧表

★1994年(第18回角膜カンファランス・第10回日本角膜移植学会)

内田賞	西川都子(近畿大)	インターロイキンによる実験的角膜炎	
北野賞	細見雅美(神戸海星病院)	角膜潰瘍に対するヒアルロン酸点眼薬の効果	
眞鍋賞	木佐貫操(神戸大)	Werner症候群の角膜における細胞増殖能についての組織学的検討	

★1995年(第19回角膜カンファランス・第11回日本角膜移植学会)

内田賞	近藤順子(眼科杉田病院)	強角膜片保存中の内皮細胞検査(アイバンク用スペキュラーマイクروسコープ)	角膜学会誌第1巻184頁
北野賞	吉田裕司(東京工芸大)	生体眼での複屈折効果(その1)-角膜形状応用力状態の計測-	角膜学会誌第1巻187頁
眞鍋賞	長田さやか(金沢大)	アトピー性皮膚炎患者の角膜形状の検討	角膜学会誌第1巻189頁

★1996年(第20回角膜カンファランス・第12回日本角膜移植学会)

内田賞	吉野真未(慶應大)	骨髄移植に伴うドライアイ	眼紀第48巻453-455頁、 角膜学会誌第2巻158頁
北野賞	渡辺牧夫(高知医大)	約2年間のソフトコンタクト連続装用による細菌性角膜潰瘍の一例	眼紀47巻1054-1058頁、 角膜学会誌第2巻75頁
眞鍋賞	新妻卓也(女子医大第二)	PRK後の不可逆性上皮下混濁の組織変化	眼紀第47巻1464-1467頁、 角膜学会誌第2巻56頁

★1997年(第21回角膜カンファランス・第13回日本角膜移植学会)

内田賞	光本拓也(佐賀医大)	角膜細胞の新しい単離培養法(短冊法)の試み	角膜学会誌第3巻137頁
北野賞	木村内子(東芝病院)	幼児角膜を用いた全層角膜移植の長期予後ラット全層角膜移植モデルにおけるドナー	角膜学会誌第3巻139頁
眞鍋賞	皆本敦(広島大)	角膜に対する紫外線照射の効果	角膜学会誌第3巻146頁

★1998年(第22回角膜カンファランス・第14回日本角膜移植学会)

内田賞	内田幸男選考委員ご逝去につき今回は北野賞・眞鍋賞のみとし、各2名ずつ選ぶことになった。		
北野賞	①渡辺仁(大阪大)	ケラトエピテリン関連角膜炎の遺伝子異常の違いによる臨床所見の相違	Ophthalmology, 角膜学会誌第4巻113頁
	②光本拓也(佐賀医大)	角膜内皮の修復・細胞外基質と成長因子を関連させた内皮修復の解析法	角膜学会誌第4巻115頁
眞鍋賞	①足立和加子(京都府医大)	ヒト角膜上皮に特異的な新規カテプシンのクローニング	角膜学会誌第4巻113頁
	②佐藤敦子(日本大)	自動角膜厚測定装置(SP-2000P)の臨床的評価	眼紀第50巻18-21頁

★1999年(第23回角膜カンファランス・第15回日本角膜移植学会)

内田賞	新田卓也(北海道大)	細菌アレルギーの関与する慢性角結膜炎に対するテトラサイクリン内服療法	角膜学会誌第5巻105頁
北野賞	川崎諭(京都府医大)	眼表面疾患慢性期における結膜浸潤細胞	角膜学会誌第5巻102頁
眞鍋賞	平野耕治(名古屋大)	光学的干渉断層計(OCT)の角膜疾患診断への応用について	角膜学会誌第5巻111頁

★2000年(第24回角膜カンファランス・第16回日本角膜移植学会)

内田賞	村戸ドール(神戸海星病院)	エキシマレーザー治療的角膜切除術後の眼表面所見の原疾患別検討	角膜学会誌第6巻98頁
北野賞	弓狩純子(女子医大)	アトピー性角膜炎の角膜上皮障害における好酸球とエオキタシンの関与	角膜学会誌第6巻80頁
眞鍋賞	八木明美(静岡県アイバンク)	静岡県アイバンクの斡旋に関する統計調査(1982-1999)	角膜学会誌第5巻111頁

★2001年(第25回角膜カンファランス・第17回日本角膜移植学会)

内田賞	Zheng Xiaodong(愛媛大)	アカントアメーバはヒト角膜上皮細胞アポトーシスを誘導する	角膜学会誌第7巻123頁
北野賞	月山純子(近畿大)	角膜上皮創傷治癒におけるプロスタグランジンの作用機序について	角膜学会誌第7巻123頁
眞鍋賞	加賀谷文絵(東京大)	ヒト羊膜上皮培養上清は角膜移植後の血管新生を抑制する	角膜学会誌第7巻128頁

★2002年(第26回角膜カンファランス・第18回日本角膜移植学会)

内田賞	中川裕子(徳島診療所)	眼圧上昇を伴う重篤な角膜ブドウ膜炎を呈したムンプス	角膜炎の1例角膜学会誌 第8巻35頁
北野賞	尾藤洋子(京都府医大)	結膜弛緩症の多数例に対する涙液メニスカス再建術の検討	角膜学会誌第8巻80頁
眞鍋賞	藤田聡(東京医大)	レシピエント角膜上皮を温存した角膜移植術	角膜学会誌第8巻87頁

★2003年(第27回角膜カンファランス・第19回日本角膜移植学会)

内田賞	大宮勝美(羽曳野病院)	両眼性・多発性の角膜上皮嚢胞を示した1症例	角膜学会誌第9巻87頁
北野賞	大野健治(国立東京医療センター)	病状説明でのフルオレセイン・ブルーフリーシステムの有用性	角膜学会誌第9巻71頁
眞鍋賞	遠藤健一(京都府医大)	羊膜上皮基底膜におけるIV型コラーゲンα5鎖の発現・角膜上皮基底膜との類似性-	角膜学会誌第9巻90頁

★2004年(第28回角膜カンファランス・第20回日本角膜移植学会)

内田賞	茂田今日子(銚子市立総合病院)	角結膜疾患患者における涙液中ケモカインの検討	角膜学会誌第10巻158頁
北野賞	酒井理恵子(自治医大)	ヒト角膜内皮細胞に高発現するCESP-1の特異抗体作製と細胞内局在	角膜学会誌第10巻152頁
眞鍋賞	前田政徳(近畿大)	結膜弁被覆を併用した人工角膜手術	角膜学会誌第10巻170頁

★2005年(第29回角膜カンファランス・第21回日本角膜移植学会)

内田賞	鴨居瑞加(立川共済病院)	涙液分泌低下型ドライアイにおける涙液蒸発率と涙液油層状態	角膜学会誌第11巻78頁
北野賞	板橋幹城(近畿大)	WGCV, GVACVのヘルペス性角膜上皮炎への効果	角膜学会誌第11巻87頁
眞鍋賞	渡邊和誉(兵庫アイバンク)	献眼情報より臓器および組織提供に結びついた1例	

★2006年(第30回角膜カンファランス・第22回日本角膜移植学会)

内田賞	張巍(愛媛大)	Frameshift Mutationによるアシクロビル耐性角膜ヘルペスの1例	角膜学会誌第12巻109頁
北野賞	寺井典子(京都府医大)	マウス角膜の分化・成熟におけるケラチン12の発現	角膜学会誌第12巻97頁
眞鍋賞	諸星計(鳥取大)	CCR5・CXCR3欠損マウスにおける角膜移植後拒絶反応の検討	角膜学会誌第12巻104頁

★2007年(第31回角膜カンファランス・第23回日本角膜移植学会)

内田賞	林竜平(東北大)	角膜輪部上皮におけるN-cadherin発現細胞の解析	
北野賞	林孝彦(横浜市大)	マウス水泡性角膜症に対するアロ角膜内皮細胞移植とアロ全層角膜移植の免疫反応	
眞鍋賞	石丸慎平(獨協医大)	深部表層角膜移植【DLKP】術にて摘出された角膜の組織学的検討	

★2008年(第32回角膜カンファランス・第24回日本角膜移植学会)

内田賞	佐藤エンリケアダン(慶應大)	レーザー生体共焦点顕微鏡によるシェーグレン症候群 症例の涙腺炎症状態の観察	
北野賞	子島良平(宮田眼科病院)	アカントアメーバに対する薬剤感受性試験の検討	
眞鍋賞	入江真理(富山県アイバンク)	富山県アイバンクの15年の活動報告	

★2009年(第33回角膜カンファランス・第25回日本角膜移植学会)

内田賞	三村達哉(東京大)	角膜血管新生におけるin vitroでのMT1-MMPのDecorin分解	
北野賞	長谷川美恵子(大手前病院)	フルオロキノロン耐性を示した感染性角膜潰瘍の3例	
眞鍋賞	横川英明(金沢大)	Busin グライド使用に伴う内皮障害評価ー新鮮ヒト角膜を用いた実験ー	

★2010年(第34回角膜カンファランス・第26回日本角膜移植学会)

内田賞	山田直之(山口大)	フィブロネクチン由来ペプチド PHSRN 点眼が著効した神経麻痺性角膜症の1例	
北野賞	竹田一徳(京都府医大)	急性期眼表面疾患に対する自己培養口腔粘膜上皮移植術の臨床成績	
眞鍋賞	田中寛(京都府医大)	眼表面疾患患者のMRSA 保菌に関する検討	

★2011年角膜カンファランス(第35回日本角膜学会・第27回日本角膜移植学会)

内田賞	吉田悟(慶應大)	角膜実質の再生医療に向けた神経堤幹細胞のiPS 細胞からの誘導	
北野賞	松永透(順天大)	リン酸基含有ハイドロゲルをデバイスとした前眼部へのTACSTD2 遺伝子導入	
眞鍋賞	中村孝夫(大手前病院)	無水晶体眼水疱性角膜症に対する角膜内皮移植	

★2012年角膜カンファランス(第36回日本角膜学会・第28回日本角膜移植学会)

内田賞	水戸毅(愛媛大)	アカントアメーバへのphotodynamic therapy (PDT):抗アメーバ薬との併用効果の検討	
北野賞	小林剛(愛媛大)	マウス表皮細胞から形質転換した角膜上皮様細胞の免疫組織学的検討	
眞鍋賞	中川紘子(京都府医大)	同一ドナーから提供をうけた2眼を使用した角膜内皮移植での角膜内皮細胞密度の経過	

★2013年角膜カンファランス(第37回日本角膜学会・第29回日本角膜移植学会)

内田賞	伊藤吉将(近畿大・薬)	薬物ナノ粒子分散液の調製と点眼剤としての応用性:ナノ粒子分散液の角膜傷害性評価	
北野賞	松永透(順天大)	膠様滴状角膜ジストロフィ角膜上皮細胞へのTACSTD2遺伝子導入・機能発現	
眞鍋賞	稲垣絵海(慶應大)	マウス角膜実質幹細胞の細胞移植	

★2014年角膜カンファランス(第38回日本角膜学会・第30回日本角膜移植学会)

内田賞	近間泰一郎(広島大)	非接触高倍対物レンズを用いたレーザー生体共焦点顕微鏡による病原微生物の観察	
北野賞	森重直行(山口大)	角膜実質コラーゲン線維束構造の解剖学的特徴	
眞鍋賞	島伸行(東京大)	角膜の曲率適合型培養ヒト角膜内皮細胞シートの有効性・安全性の評価	

★2015年角膜カンファランス(第39回日本角膜学会・第31回日本角膜移植学会)

内田賞	高橋広樹(東京医科大学)	角膜内ランゲルハンス細胞の動態	
北野賞	北澤耕司(京都府立医科大学/京都大学iPS細胞研究所)	CRISPR/Cas9を用いてPAX6をノックアウトしたヒト角膜上皮細胞の検討	
眞鍋賞	稲富 勉(京都府立医科大学)	Descemet membrane endothelial keratoplastyにおける角膜厚と視力推移の検討	

★2016年角膜カンファランス(第40回日本角膜学会・第32回日本角膜移植学会)

内田賞	田島一樹(慶應大外科・東京医大)	病原遺伝子の網羅的検索による多剤耐性緑膿菌角膜炎の病原性解析	
北野賞	稲垣絵海(慶應大)	ヒト皮膚幹細胞由来の誘導角膜内皮細胞におけるポンプ機能解析	
眞鍋賞	石居信人(旭川医大)	角膜内皮移植の予後に関連する因子	

★2017年角膜カンファランス(第41回日本角膜学会・第33回日本角膜移植学会)

内田賞	石川 幸(大阪大)	ヒトiPS細胞由来角膜上皮細胞の長期培養	
北野賞	北本昂大(東京大)	顆粒状角膜変性症に対するCRISPR/Cas9を用いた遺伝子編集	
眞鍋賞	柿栖康二(東京歯大)	海外ドナー角膜の術前温度管理が角膜内皮移植術後の内皮細胞密度に与える影響	

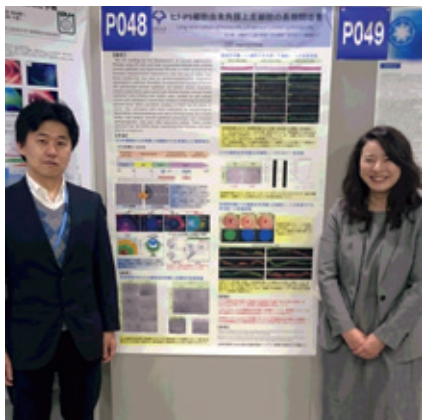
石川 幸 (大阪大)

2017年度 内田賞を受賞して

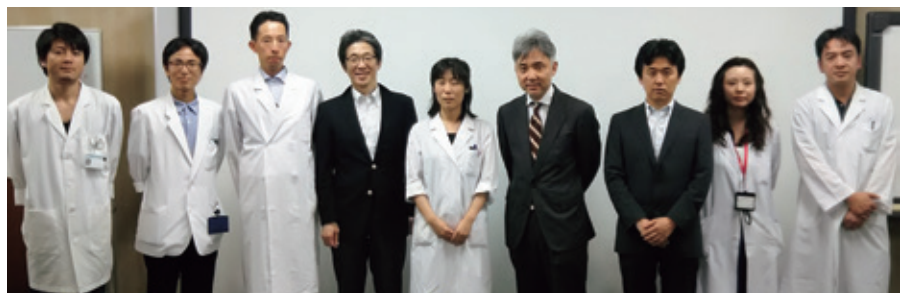


この度、角膜カンファランス2017におきまして名誉ある内田賞を受賞させていただきましたこと、大変光栄なことと感謝しております。受賞に際しまして選考していただきました先生方に厚く御礼申し上げます。私が大阪大学西田幸二教授と林竜平教授のもとで角膜上皮再生医療の研究を始めたのは7年前のことで、とくに林先生からは、研究手技的なことから研究に向き合う姿勢に至るまで、本当に多くのことをご指導いただきました。この内田賞は、林先生がちょうど10年前に受賞されました。さらに先生は本年度の学術奨励賞も受賞され、二つの偶然が重なり、非常に大きな喜びを感じております。

今回、「ヒトiPS細胞由来角膜上皮細胞の長期培養」というテーマで発表を



角膜カンファランスにて林先生と



阪大眼科再生医療チームと

させていただきます。この研究のきっかけとなりましたのが、2016年度に林先生がNature誌で発表されたiPS細胞からの角膜細胞の分化誘導研究です。この研究で開発されたSEAM法により、iPS細胞由来角膜上皮細胞(hiCEC)を効率的に分化誘導、単離およびシート培養することに成功しました。作製したhiCECシートが角膜上皮としての機能をどのくらいの期間保持しているかを評価するため、家兎角膜上皮疾患モデルへの移植実験を実施しましたが、異種間での移植により免疫拒絶反応が起こってしまい長期観察は困難でした。研究員の片山朋彦さんをはじめとする本研究室の動物実験チームのご尽力により、従来法よりもより安定した角膜欠損モデルの作製方法が構築され、更に免疫拒絶を制御するための手法が検討されましたが、最長でも移植後3~4週間までしか観察できないのが現状です。そこで、慶應義塾大学の宮下英之

先生、榛村重人先生らの論文を参考に、*in vitro*の長期間培養によるhiCECシートの評価について検討を行いました。その結果、hiCECシートは長期間(少なくとも28週間)にわたって正常な機能および幹細胞性能を維持していることがわかり、*in vivo*では困難であったhiCECシートの長期観察および機能評価が*in vitro*で再現可能であることが示されました。*in vitro*での評価法は、動物実験を行う手間やコスト、倫理的問題を軽減するだけでなく、拒絶反応や免疫抑制剤の影響や動物個体差などを気にすることなく純粋な機能を検討できる方法であると考えております。本研究を行うにあたり、ご指導ご協力いただきました研究室の方々に心より感謝致します。今後も、眼領域の再生医療の発展を少しでもお手伝いできるような身を引き締めて研究していきたいと思っておりますので、引き続きご指導下さいますよう宜しくお願い致します。

北本 昂大 (東京大学眼科)

2017年度 北野賞を受賞して



この度角膜カンファランス2017におきまして、「顆粒状角膜変性症に対するCRISPR/Cas9を用いた遺伝子編集」という研究発表で、北野賞という大変栄誉ある賞を受賞することができました。ご指導いただいた千葉大学粘膜免疫学の大内先生、東京大学眼科の臼井先生、竹溪先生をはじめ、東大角膜グループの皆様、また本研究を北野賞に選んでくださいました日本角膜学会評議員ならびに学会関係者の先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

顆粒状角膜変性症は遺伝性の角膜混濁を来す疾患で、角膜移植、治療的角

膜切除術を行っても混濁再発のリスクがあります。本疾患はTGFBI遺伝子の点変異が原因であり、正常遺伝子への是正が唯一の根治療法と考えられています。

従来遺伝子編集技術にはZFN、TALENといったものが知られていましたが、2013年にCRISPR/Cas9という画期的なシステムがほ乳類細胞においてもゲノム編集可能なことが報告され、簡便にターゲットが設計でき、かつその高い組換え効率から、本システムが基礎研究で広く使われるようになっていきます。CRISPR/Cas9を用いた遺伝子治療に関しても様々な分野で研究が進

んでおり、このシステムを角膜疾患に応用可能か検討を行いました。

今回の報告で、少なくともin vitroにおいてはTGFBI遺伝子の点変異が正常配列に修正され、重大な懸念事項である異常な遺伝子組換え、いわゆるオフターゲットを生じないことが確認できました。今後は動物を用いたin vivoでの遺伝子編集効率や、表現系の変化の確認をする必要があります。まだまだ課題が多く残されていますが、今後も臨床応用に向けて研究に邁進していきたいと考えています。

CRISPR/Cas9に限らず現在遺伝子治療は様々な分野で研究が進んでおり、眼科内でもウイルスを用い、網膜色素変性の遺伝子治療や抗VEGF製剤の過剰発現といった臨床研究が行われています。今後発展していく大変魅力的な分野のなかで、私のような若輩者が研究の一端を担わせていただけていることを光栄に思います。本研究に引き入れてくださった臼井先生、竹溪先生には、この貴重な機会をいただけていることに心から感謝したいと思います。本賞を励みとし、研究者として、また眼科医として研鑽を積んで参りたいと思いますので、今後も御指導、御鞭撻の程よろしくお願いいたします。



角膜グループにて定期開催されている「肉の会」にて

柿栖 康二 (東京歯科大学)

2017年度 眞鍋賞を受賞して



角膜カンファランス2017年において、「海外ドナー角膜の術前温度管理が角膜内皮移植術後の内皮細胞密度に与える影響」という研究演題で「眞鍋賞」を受賞させて頂きました。本賞の関係者ならびに選考して下さいました諸先生方、深く御礼申し上げます。

私は2009年に東邦大学大森病院医療センター眼科学教室に入局、一般診療に従事しておりました。2014年4月に角膜を専門とする堀裕一先生が教授に就任されたことが契機となり、前眼部疾患や角膜移植に興味を湧き始め、角膜への道を志しました。その後、日本最多の角膜移植件数を誇るに東京歯科大学市川総合病院で勉強する機会をいただき、2016年4月から現在まで国内留学させて頂いております。東京歯科大学では豊富な症例数や多彩な疾患を経験できるだけでなく、論文報告や症例検討会などの座学も毎週行われており、充実した毎日を過ごしております。本発表においても島崎教授よりテーマを頂戴し、研究を開始させて頂いております。角膜内皮移植術後の内皮細胞密度に影響を与える因子は今までも数多く報告されておりますが、温度変化に着目した論文はありません。本研究では海外ドナー角膜の術

前温度変化を加えると術後6カ月以内で内皮細胞密度減少率が約5~10%増加しました。プレカットや輸送では減少率が2~3%増加する報告もあり、それらと比較しても温度変化を加えることが内皮細胞に侵襲的であると思われます。まだその具体的な機序は明らかではありませんが、今後本研究で何か新しい知見を得ることができる可能性を信じながら、継続していきたいと思っております。2018年4月に東邦大学大森病院医療センターへ戻る予定ですが、こ

こで得た2年間の経験や知識を活かせるよう日々研鑽を積んでいきたいと思っております。本研究を遂行するにあたり、多大なるご指導ご助言をいただきました島崎潤教授はじめ、研究にご協力いただきましたすべての先生方に心より深謝致します。この度の受賞を励みとし、今後も臨床ならびに研究業務に励んでいきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



島崎先生お誕生日会

日本角膜学会 会則

第1章 名称・事務局

- 第1条 本会は日本角膜学会(Japan Cornea Society)と称する。
第2条 本会の事務局は、〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘3-6
山本ビル302号室日本眼科紀要会内に置く。

第2章 目的および事業

- 第3条 本会は角膜・眼表面に関する基礎的、臨床的研究を通して、これに関わる疾患の診断と治療の発展に資することを目的とする。
第4条 本会は第3条の目的を遂行するために次の事業を行う。
1) 学術集会の開催
評議員会で会長を指名し、その会長が年1回の学術集会(日本角膜学会総会)を日本角膜移植学会と併催する。
2) 学会誌の発行
年1回発行する。
3) 日本アイバンク協会、日本失明予防協会などの関係諸団体と協力し、活動に関係した講習会、研究、社会貢献(市民公開講座)を開催する。
4) その他、本会の目的に沿った事業を行う。
5) 倫理規定と利益相反(COI)を決める。

第3章 会員

- 第5条 会員は角膜・眼表面の研究に従事する者およびこれに準ずる者で、第6条の所定の手続きを完了したものとす。
第6条 本会に入会を希望する者は規定の申込用紙に必要事項を記入し、会費をそえて事務局に申込み、理事会の承認を受けることとする。
第7条 退会を希望する者は退会届けを事務局に提出しなければならない。ただし、3年以上会費払い込みのない者は自動退会とする。また、本会の名誉を著しく傷つける行為のあった者は理事会の議決を経て除名することができる。
第8条 休会を希望する者は休会届けを事務局に提出しなければならない。
第9条 会員は学術集会に参加し研究発表を行うことができる(筆頭発表者は会員に限る)。
第10条 本会に法人会員を置くことができる。法人会員は理事の推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。
第11条 本会に名誉会員を置くことができる。名誉会員は理事会で推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。

第4章 評議員

- 第12条 本会に30名の評議員を置く。
第13条 評議員は有権者の投票にて立候補者から30名選出される(選挙は2年に1回、無記名、10名~20名連記で行う)。評議員の選挙は評議員会で選出された4名の選挙管理委員によって施行される。評議員の任期は1月1日から翌年の12月31日とする。なお、有権者とは、会員のうち選挙施行年度の会費の支払いが指定された期日までに終了している者とする。

第5章 役員(理事および監事)

- 第14条 理事は評議員の中から投票によって8名選出される。理事長は理事の投票によって選出される。理事長は理事以外の評議員の中から監事2名を指名する。

第15条 理事長は本会の会務を総括する。理事長の任期は1期2年とし、再任は永久に妨げる。また、理事長が任期中、何らかの事故に遭遇し、その職務を遂行できなくなった場合、理事会がその職務を代行する。理事長ならびに役員は次の理事長ならびに役員が決定するまでその職務を代行する。

第16条 理事の職務は、会計、学術、編集、渉外・社会保険、総務、研究、記録の7分野で、各理事が各々の分野の責任者となり、理事長が総括する。

第17条 役員の任期は、3月1日から翌々年の2月末日までの2年とし再任を妨げないが、連続2期を超えて重任することはできない。

第18条 役員に欠員が生じた場合は、投票結果の次点者を充てる(任期は前任者の任期の残りを充てる)。

第19条 役員、評議員は無給とする。

第6章 会議

第20条 会議は総会、評議員会、理事会とし、理事長がこれらを招集し、その議長を務める。また、理事会には、役員その他、当年度および次年度の会長が出席する。

第21条 総会、評議員会、理事会は年1回開催されるが、理事長は必要に応じて臨時に総会、評議員会、理事会を招集することができる。

第22条 理事会は本会の運営方針に関する重要事項について立案し、評議員会に提案するとともに、評議員会での決定事項を実行する。

第23条 評議員会は理事会での提案事項を協議し、決定する。

第24条 総会では、理事長が理事会および評議員会での決定事項を報告する。

第25条 評議員会は構成員数の2/3の出席をもって成立する(委任状を認める)。

第26条 評議員会の議事は実出席者の過半数をもって可決される。

第27条 監事は年1回、会計監査を行い、評議員会にて報告する。

第7章 会費

第28条 本会の運営経費は会員の会費、法人会員の会費その他をもって行う。但し非営利的に運営されねばならない。

第29条 本会の会計年度は毎年1月1日より12月31日までとする。

付 則

第1条 本会則は1995年1月1日より発効実施される。

第2条 本会則は評議員会実出席者の2/3以上の同意により変更できる。

第3条 本会の会員の年会費は年額5,000円とする。法人会員の年会費は年額50,000円とする。

第4条 学術集会の会費は当該会長によって決定される。

第5条 本会の会員の年会費を年額10,000円に変更する。法人会費は変更なし。

(1996年2月16日改訂)

(1999年2月12日改訂)

(2010年2月11日改訂)

(2012年2月23日改訂)

(2015年4月9日改訂)

(2016年2月18日改訂)

2017年日本角膜学会理事会議事録

開催日時: 2017年2月15日(水)18:00~19:30

場 所: 会議室608(アクロス福岡6F)

出席者: 大鹿哲郎、木下 茂、島崎 潤、下村嘉一、西田幸二、
坪田一男、山田昌和 各理事
高村悦子、秦野 寛 両監事

欠 席 者: 井上幸次

新 理 事: 大鹿哲郎、大橋裕一、下村嘉一、外園千恵、坪田一男、
前田直之、堀 裕一

オブザーバー: 内尾英一、近間泰一郎 事務局 三宅啓子 計16名

欠 席 者: 井上幸次

議 長: 島崎 潤 理事長

議 題:

I. 報告事項

1. 選挙結果 島崎理事長

新評議員は以下の30名である。

天野史郎、稲富 勉、井上幸次、白井智彦、大鹿哲郎、大橋裕一、
加治優一、木下 茂、小泉範子、高 静花、小林 顕、雑賀司珠也、
佐々木香る、澤 充、島崎 潤、清水公也、下村嘉一、榛村重人、
外園千恵、高村悦子、近間泰一郎、坪田一男、西田幸二、
堀 裕一、前田直之、宮田和典、山上 聡、山田昌和、横井則彦、
渡辺 仁

新理事は以下の8名である。

井上幸次、大鹿哲郎、大橋裕一、下村嘉一、外園千恵、
坪田一男、前田直之、堀 裕一

2. 会員の動静 島崎理事長

1,210名(2017年1月31日現在)、休会者2名、留学3名

本会員 1,210名(2016年1月1,251名 41名減)
(医師 1,113名 医師以外 97名)

法人会員 21社(2016年1月 21社 増減なし)

値上げの影響があるのかもしれないが、3年間未払いの会員を
削除した。

3. 2016年度会計報告 大鹿理事

歳入: 会費が増えた。

歳出: 研究費は出費がなかった。印刷費が安くできた。会費を値
上げしたので、繰越金に余裕ができた。

TS-1は涙液・涙道学会で賄えるのではないかな。

4. 第14回学術奨励賞について 下村理事

2016年12月3日(土)

アルカナ東京KARATOにて選考委員会開催

(下村嘉一委員長、崎元 卓、西田輝夫、秦野 寛、林 皓三郎、4委員
事務局 三宅啓子、田川義継、山口達夫欠席)を開催した。

応募者4名を慎重に選考し、下記の2名に決定した。

受賞者

・林 竜平(大阪大学)

「ヒトiPS細胞からの角膜上皮の分化誘導と再生医療への応用」

・北澤耕司(京都府立医科大学)

「角膜上皮細胞分化を維持する転写因子ネットワークの解明」

5. 日本角膜学会優秀ポスター賞 下村理事

昨年同様、第一次審査は評議員を3組に分けて行います。

第二次審査は評議員全員で行います。よろしく願いいたします。

6. 角膜カンファランス2016 学会報告

島崎理事長(清水公也会長)

参加者が926名、232演題であった。

例年の角膜カンファランスより金額が大きいと思う。共催セミ
ナーが16企画ある。

会長招宴があった。

7. 角膜カンファランス2017 学会について 内尾英一会長

名称: 第41回日本角膜学会総会・第33回日本角膜移植学会

日時: 2017年2月16日(木)~2月18日(土)

会場: アクロス福岡

会長: 内尾英一(福岡大学)

事前登録は596名、225題の演題登録があった。

メイン会場は地下2階、4階、6階に分かれている。直接エレベ
ーターで行けない。

登録費用が高いわりには演題数が減らなかった。

一般演題のなかに、日本語のみのスライドでもOKという演題
を設けた。英語のスライドを必ず入れる会場を設けている。

アスレチックはバブルサッカーで、フットサル的一种です。各
グループの上位2チームを選び、懇親会のときにクイズをして
順位を決める。

8. 角膜カンファランス2018 学会について 近間泰一郎会長

名称: 第42回日本角膜学会総会・第34回日本角膜移植学会

日時: 2018年2月15日(木)~2月17日(土)

会場: グランドプリンスホテル広島

会長: 近間泰一郎(広島大学)

特別講演は広島大学の学長をお願いしている。日本で初の保険
診療をされた先生です。招待講演は恩師のKao先生。発生をしっ
かり学んで、もう一度考えようというコンセプトである。

シンポジウムは内々定をもらっている。

海に面したホテル(一会場)で市内からは少し距離があるが、皆
が一堂にそろう、夜中まで侃侃諤々の議論ができる。

9. 角膜カンファランス2019 学会について 外園千恵会長

名称: 第43回日本角膜学会総会・第35回日本角膜移植学会

日時: 2019年2月

会場: 京都国際会館とウエスティン京都ホテルとで迷っている。

会長: 外園千恵(京都府立医科大学)

次世代の人が是非角膜をやっていきなさいと思う学会にしたい。

10. ウェブサイト関連 坪田理事

ホームページをリニューアルした。

11. 各種委員会

・羊膜委員会: 大橋裕一、木下 茂、澤 充、篠崎尚史、島崎 潤、

外園千恵、西田幸二

羊膜移植バンクについて

西田理事

カテゴリーⅠは京都府立医科大学、愛媛大学、東京歯科大学市
川総合病院 申請中は富山大学(乾燥羊膜の研究をしている所)

カテゴリーⅡは久留米大学、けいゆう病院、大阪大学 申請中
は長崎大学

・羊膜移植講習会: 講師の先生はすでに長いので、是非ご協力く
ださい。

2017年2月18日(土) 日本角膜学会

2017年8月5日(土) 日本組織移植学会総会

2017年10月15日(日) 日本臨床眼科学会

来年以降は年2回行う。

・外保連委員 堀理事
堀裕一(実務)、小林顕(手術)、高村悦子(処置)、
山田昌和(検査)、麻酔担当:なし
平成30年の改訂に角膜学会から要望として出したのは羊膜移植術との併施、前眼部OCT(水晶体疾患は外して、術前検査として白内障手術に使われている)、マイボーム腺機能の評価、涙液検査である。

12. 各ワーキンググループの進捗状況

・TS-1多施設スタディワーキンググループについて 山田理事
臨床眼科学会のために中間集計結果を報告した。症例追加のためにエントリー期間を2018年3月、研究期間を2019年3月まで延長する。器械を愛媛大学に移動させる。

13. 日本角膜学会年次報告書の発行 島崎理事長(井上理事)
今年はじめに発行し、すでに会員・各大学に送付した。

14. 用語委員会 前田理事
角膜学会用語委員:前田直之、大橋裕一、宇野敏彦、小林 顕、
近間泰一郎、外園千恵、山田昌和、庄司 純
本来ですと、各種委員会のところで述べるべきと思います。
各学会の査読委員で最終のチェックを行った。Webにアップされた後でも訂正は可能である。

15. その他

・涙の目を7月3日に制定した(オフィシャルに認められた)。 坪田理事
感覚器の重要性を言いたい。
・ドライアイ診断基準を変更した。 坪田理事
20年目に改訂した。角膜に傷がなくても、涙の量が少なくなくてもドライアイの診断ができる。BUT5秒以下。脳の病気ではないか。腰痛などと同じである。
あたらしい眼科の3月号に掲載される。
Asiaドライアイの診断基準としても認められた。

II. 協議事項

1. 2017年度予算 大鹿理事
研究費は200万円挙げている。あとは大きな変更はない。
ホームページの費用が高い。見直しが必要である。
角膜学会に若い先生に入ってもらうために、動画を入れた。効果を見る。

2. 現在行っている角膜難病の研究班の継続申請について 西田理事
厚生労働省の事業で、日本眼科学会が主催している。
これまで3年間、角膜と網膜が採用された。
診断基準を載せている。前眼部形成異常、無虹彩症については指定難病に認められた。
継続申請をしている。研究組織は基本的に前と同じ。角膜内皮症、角膜形状異常症、先天性角膜混濁、周辺部角膜潰瘍、角膜ジストロフィ、角膜上皮幹細胞疲弊症のマイズガイドラインを作成する予定である。

3. 角膜カンファランスアイバンクセッションの担当決め

島崎理事長
3年前から、豚眼を使ったウエットラボを行っている。角膜学会、角膜移植学会、アイバンク協会の2学会、1団体の主催で行った。臨床眼科学会で行う方がよいのではないか。角膜学会は私が、角膜移植学会は西田先生が、アイバンク協会は西田輝夫先生が担当してきた。これからは新理事に担当してほしい。総務が担当すればよいのではないか。明文化したものを作成するとよい。企業が器械などを提出してくれる。
あり方委員会をつくる。

4. アイバンクの角膜摘出士法制化について 秦野監事
眼球を摘出できる若い先生が減っている。角膜摘出士という専門の人がいればアイバンクの提供眼数も増えるのではないか。法律の変更、法律の解釈の変更が必要である。日本眼科学会、日本眼科医会の賛同のある方がよい。
いろいろなデータをとって継続審議をしていく。
具体性をもって、よい方法を探す。臓器移植対策室と折衝を続けていく。

5. 理事・評議員の定年について 木下理事・大橋理事
新理事で定年を決めてほしい。次回の選挙までに試案を作成してほしい。名誉会員規程についても決めてほしい。他学会の名誉会員規程を参考にして。
ターンオーバーについては、最近4回の理事のターンオーバーが悪い。日本眼科学会の定年が65歳になった。
評議員の定年を決めるとよいのではないか。有償名誉会員がよい。評議員会に出席して朝食を食べることができる。名称を名誉会員ではなく、エグゼクティブ会員など考える。

6. 2020年学会について 島崎理事長
角膜学会総会立候補用紙をホームページに掲載している。
今のところ、山上先生からきいている。

7. その他

・学術奨励賞選考委員について
利益相反がからむので、今のままでよい。

2017年度 第1回日本角膜学会新理事会議事録

理事長を大鹿哲郎先生にお願いする。
理事の担当をそれぞれ以下のように決めた。
総務・アイバンク:坪田一男先生
学術:下村嘉一先生
渉外・社会保険:堀 裕一先生
編集:井上幸次先生
会計:大橋裕一先生
研究:外園千恵先生
書記・ホームページ:前田直之先生

2017年 第1回日本角膜学会評議員会議事録

開催日時: 2017年2月16日(木) 7:30~8:30

場 所: 会議室 608(アクロス福岡6F)

出席者: 天野史郎、稲富 勉、井上幸次、白井智彦、大鹿哲郎、
大橋裕一、加治優一、木下 茂、高 静花、小林 顕、雑賀司珠也、
佐々木香る、澤 充、島崎 潤、清水公也、下村嘉一、榛村重人、
外園千恵、高村悦子、近間泰一郎、西田幸二、堀 裕一、
前田直之、宮田和典、山上 聡、山田昌和、横井則彦、渡辺 仁
オブザーバー 内尾英一 事務局 井上聖子、三宅啓子 計31名
欠席者: 小泉範子、坪田一男 計2名

議 長: 島崎 潤 理事長

議 題:

I. 報告事項

1~3 は理事会と同様

4. 追加として
選考委員のメンバー変更をしようと思ったのだが、余人に変えられないので、続行することになった。

5. は理事会と同様

6. 角膜カンファランス2016 学会報告 清水公也会長
寒い軽井沢で行った。参加者は926名、演題は232題であった。

7~8 は理事会と同様

9. 角膜カンファランス2019 学会について 外園千恵会長
名称: 第43回日本角膜学会総会・第35回日本角膜移植学会
日時: 2019年2月7日(木)~9日(土)がよいのではないか。
会場: 京都国際会館とウエスティン京都ホテルとどちらかになると思う。
会長: 外園千恵(京都府立医科大学)

10~11 は理事会と同様

12. 各ワーキンググループの進捗状況 に追加として
・角膜学会で行った抗腫瘍薬ワーキングの結果が、日眼会誌に掲載された。(井上理事)

13. 日本角膜学会年次報告書の発行 井上理事
今年はじめに発行し、すでに会員・各大学に送付した。

14. は理事会と同様。

15. その他

- ・ドライアイ診断基準を変更した。 横井評議員
角膜上皮障害を問わずにBUT5秒以下であればドライアイと認める。あたらしい眼科3月号に掲載される。ドライアイのホームページにはすでに掲載されている。
アジアドライアイにも認められてOcular Surface 1月号に掲載されている。
- ・涙の目を7月3日に制定した。
今年からイベントを行う予定である。
- ・2018年2月19日アメリカのカリフォルニア州で角膜のカンファランスを開催する。

II. 協議事項

1. は理事会と同様

2. 現在行っている角膜難病の研究班の継続申請について 西田理事
難病の政策事業は厚生労働省に残っているが、日本眼科学会に網膜と角膜が採択された。2016年から3年間行われた。
診断基準、ガイドラインを作成した。すでにメールで認められているが、意見があれば知らせてほしい。
前眼部形成異常、無虹彩症については指定難病に認められた。
継続申請を行った。基本的な研究組織は変えていないが、京都府立医科大学は外園先生に、愛媛大学は白石先生に変更した。
マイズガイドラインの作成を目指す。疾患レジストリの構築と解析を行う。

3. 角膜カンファランスアイバンクセッションの担当決め 島崎理事長
若い先生で角膜の摘出の経験のない人に教えていくために始まった。角膜学会は私が担当していたが、総務の坪田先生にお願いしたい。

4. は理事会と同様

5. 理事・評議員の定年制、名誉会員規程について 大橋理事
現在19名残っている。評議員は2011年以降だと変わっているが、理事の新陳代謝が良くない。
日本眼科学会も65歳を定年とした。
多様性を重んじた方がよいのではないかと。若い人を引き入れるようにする。
新理事で案を作成して評議員会で検討する。再来年の選挙のときまでに決めたいので、来年の評議員会に出したいと思う。

6. 2020年学会について
山上先生が手を挙げている。西が続いているので、そろそろ東がよいのではないかと認められた。

7. その他

- ・演題数が増えたので、アスレチックをコンパクト化してはどうか。学会のあり方について考えてはどうか。学会長の裁量を重んじてはどうか。
- ・涙の日 は一般の人が聞いたときに悲しい思いがあるので、涙の日という言い方を考えてはどうか。
- ・今年の3月に日本小児眼科学会を主催するので、前眼部を主にしたいと思う。来年3月の日本小児眼科学会では寺崎先生が担当するので、網膜が主になると思う。
- ・ドライアイ研究会が決めたことは角膜学会が認めたことかどうか。
- ・学会のスライド表記について
アジアからの参加者のために英語スライドを始めた。

2016年歳入歳出決算報告書(角膜)

[自2016年1月1日至2016年12月31日]

歳入		単位(円)	
科目	予算額	歳入額	予算に比し増減
年会費	10,000,000	11,420,000	+1,420,000
法人会員会費	1,050,000	1,050,000	0
H P 広告料	600,000	600,000	0
雑収入	20,000	14,309	-5,691
利息	2,000	1,452	-548
歳入小計	11,672,000	13,085,761	+1,413,761
前年度繰越金	4,100,050	4,100,050	0
歳入合計	15,772,050	17,185,811	+1,413,761

歳出		単位(円)	
科目	予算額	歳出額	予算に比し増減
担当校へ補助	700,000	700,000	0
調査研究費	2,000,000	0	-2,000,000
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	1,500,000	991,008	-508,992
会議費	500,000	466,923	-33,077
学術奨励賞	450,000	561,104	+111,104
消耗品費	200,000	154,906	-45,094
通信・発送費	300,000	353,846	+53,846
旅費	600,000	503,883	-96,117
雑費	150,000	172,867	+22,867
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
選挙関係費用	400,000	338,666	-61,334
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	1,900,000	1,918,080	+18,080
羊膜移植講習会	700,000	609,440	-90,560
予備費	400,000	0	-400,000
支出小計	12,136,000	9,106,723	-3,029,277
次年度繰越金	3,636,050	8,079,088	+4,443,038
支出合計	15,772,050	17,185,811	+1,413,761

日本角膜学会 2017年度予算案

歳入		単位(円)	
科目	2016年度 予算額	2017年度 予算額	差額
年会費	10,000,000	11,500,000	+1,500,000
法人会員会費	1,050,000	1,050,000	0
H P 広告料	600,000	600,000	0
雑収入	20,000	20,000	0
利息	2,000	2,000	0
歳入小計	11,672,000	13,172,000	+1,500,000
前年度繰越金	4,100,050	8,079,088	+3,979,038
歳入合計	15,772,050	21,251,088	+5,479,038

歳出		単位(円)	
科目	2016年度 予算額	2017年度 予算額	差額
担当校へ補助	700,000	700,000	0
調査研究費	2,000,000	2,000,000	0
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	1,500,000	1,500,000	0
会議費	500,000	500,000	0
学術奨励賞	450,000	500,000	+50,000
消耗品費	200,000	200,000	0
通信・発送費	300,000	300,000	0
旅費	600,000	600,000	0
雑費	150,000	150,000	0
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
選挙関係費用	400,000	0	-400,000
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	1,900,000	1,335,000	-565,000
羊膜移植講習会	700,000	700,000	0
予備費	400,000	400,000	0
支出小計	12,136,000	11,221,000	-915,000
次年度繰越金	3,636,050	10,030,088	+6,394,038
支出合計	15,772,050	21,251,088	+5,479,038

